

杜乃杵

秩父神社社報
杵乃杜(ははそのもり)

第 49 号

平成26年 7 月20日
(川 瀬 祭)



奉祝 御鎮座貳阡壹百年

い
新

甲のま

きふねきく

夕れなみに

いほるま

御創建二千百年という意義

我らが郷土、秩父発祥の伝承が古代の文献に初めて登場したのは、平安初期（大同年間）の古典『先代舊事本紀』巻十所収「國造本紀」の記録に見える「知々夫國造」の成立伝承でした。

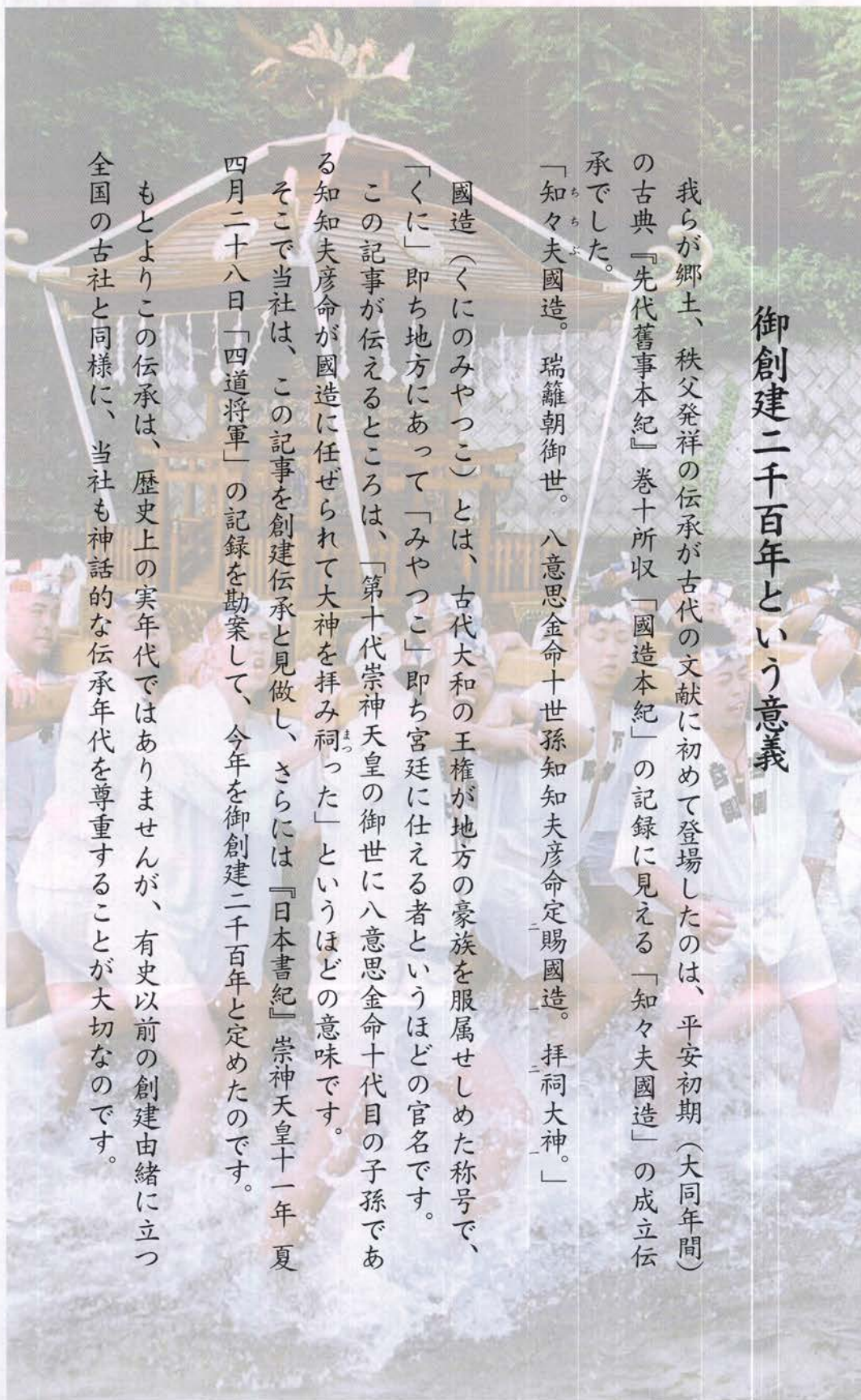
「知々夫國造。瑞籬朝御世。八意思金命十世孫知知夫彦命定賜國造。拜祠大神。」

國造（くにのみやつこ）とは、古代大和の王権が地方の豪族を服属せしめた称号で、「くに」即ち地方にあって「みやつこ」即ち宮廷に仕える者というほどの官名です。

この記事が伝えるところは、「第十代崇神天皇の御世に八意思金命十代目の子孫である知知夫彦命が國造に任ぜられて大神を拝み祠まつった」というほどの意味です。

そこで当社は、この記事を創建伝承と見做し、さらには『日本書紀』崇神天皇十一年夏四月二十八日「四道將軍」の記録を勘案して、今年を御創建二千百年と定めたのです。

もとよりこの伝承は、歴史上の実年代ではありませんが、有史以前の創建由緒に立つ全国の古社と同様に、当社も神話的な伝承年代を尊重することが大切なのです。



解説 秩父神社(48)

権欄宜 甲田豊治

◆「秩父丸」

平成26年、当社にとって将に記念すべき年を迎えている。
平安初期の典籍「先代旧事紀—国造本紀—」によれば、第十代崇神天皇の御代の十一年、知知夫国の初代国造に任命された知知夫彦命が、祖神である大神様を祀り、今年で御鎮座二一〇〇年を迎えた。
また、当社所蔵の「造営文書」に「正和三年（一一三二）妙見遷座祭

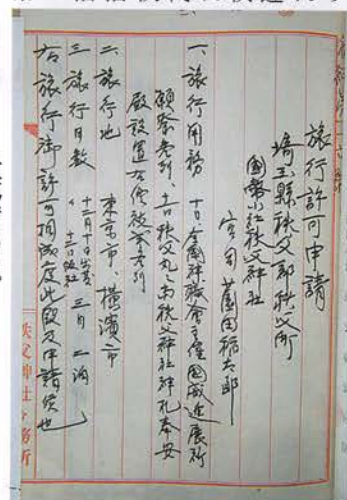


『秩父丸事務員』奉納額

「奉納額」は縦80cm横1mの大きさで、額中央には甲板上で撮影された乗組員の集合写真と秩父丸の全形がはめ込まれ、「秩父丸事務員」の名により、昭和五年九月に奉納されたものである。
次に、「職員願届類綴」昭和六年十二月の項に、「秩父丸に秩父神社神札奉安殿設置修祓式参列」の記載があり、秩父丸の船橋内に当社の御祭神をお祀りしたことが確認できた

が斎行された」とある通り当社に妙見信仰が伝えられ今年で七〇〇年の節目を迎える。爾来、当社は「秩父大宮妙見宮」と称され幕末まで続き、明治時代の神仏分離令により「秩父神社」に復した。明治四年には郷社。また明治六年には縣社に指定され、昭和三年十一月十日、國幣小社に昇格する。

実は昨年に、この國幣小社昇格当時の資料が見つかり、中でも昭和初期に建造され日本郵船所有の「秩父丸」に関する貴重資料の「奉納額」と「船内奉安殿設置」の記述が明らかになったことから、この資料二点を掲載し、「秩父丸」についての解説を試みたいと思う。



昭和6年職員願届書類綴り

次第である。

では、この「秩父丸」とは一体どのような船舶であったか、当時のこの船の特徴を記した通信省工務局無線課 多田幸穂氏の文章を引用して紹介したいと思う。
これは昭和十一年十月号として出版された「子供の科学」（誠文堂新光社）の「太平洋上から自宅へもしも」「秩父丸の無線電話」と題して、次のように書かれている。

秩父丸は日本郵船會社の所有で昭和四年横濱に於て進水し、総噸數一萬七千五百噸を有する我國最大、最優秀の客船であります。主機関としては一六、〇〇〇馬力のデイル機関二臺を以て、二十一節の快速度を出すことが出来ます。乗客は一等二四三人、二等九五人及び三等五〇〇人で、此外に三五〇名の乗組員があつて、都合約一、二〇〇名にも達する大人數が乗込

むことができ、船室の華麗と設備の完備はまるで洋上に浮かんだ一大ホテルと云った方がおしる當つて居るかもしれません。
今回我國第一の豪華船秩父丸に、無線電話装置が新たに設備せられ、去る八月八日より、海陸連絡無線電話の業務が開始せられたのであります。これは我國最初の遠距離用、大規模のものであるのみならず、無線電話装備の最初であります。ラジオの國アメリカを向ふに廻し、躍進日本の技術を誇るに足るものと思ひます。

以上のように、当時の世界に先駆けた最先端技術と華麗な装飾を施した将に夢のような豪華客船であつた。

本年の御鎮座二一〇〇年を祝し、特別企画としてこの「秩父丸」の奉納額と他資料の一般展示を検討しているところである。詳細希望の方は担当の甲田まで。



『秩父丸』のパクボー便スタンプ

秩父の家郷秩序を造景する

— お旅所斎場を中心に —

宮 司 園 田 稔

子供たちが待ちに待った当社の夏祭り川瀬祭を、今年も例年通りに迎えることができました。

七月十九日の宵宮「天王柱立て神事」も今回で十四回目となり、各町内の笠鉦・屋台八台が境内に勢揃いして祭衣裳に着飾った子供たちや若者たちが賑やかに出迎えるなか、御祭神・須佐乃男命の御神体を天王柱に勧請する神事が盛大に整い、二十日の本祭りには荒川の清冽な川瀬に浸す神輿洗いの神事をもつて盛夏の暑氣払いを果たすこととなります。

幸いに今年は宵宮と本祭が週末に当たりますので、地元小・中学校の児童・生徒たちも夏休みに入り、心おきなく精一杯に夏祭りの楽しさを味わうことでしょう。

○ 荒川の川瀬祭と武甲山の夜祭

ところで当社のこの夏祭りは、秩父の家郷を潤す荒川の恵みを感謝する神祭りですが、しかも大切な郷土の文化を次代に担う若者たちと子供たちが主役の祭礼ですが、他方で当社の誇る冬祭りは、「秩父夜祭」として土地の家郷景観を代表する武甲山の恵みを感謝する壮大な祭礼であって、しかも地元市民総出の大人たちが精一杯の主役を努める華麗勇壮な家郷文化の華なのです。

かねて小職が機会あるごとに申し述べますように、わが国各地の地方文化は、歴代の住民たちがそれぞれの恵まれた山水を生活風土に仕立て上げるなかで村や町の集落を営みつつ、周辺の山河や海浜の景観に神仏の宿りを感じ得て、先祖供養や神事祭礼を繰り返す安



御旅所斎場

撮影：幸島 潔

心立命の家郷秩序を年ごとに再現してきたのです。

○ 祭礼は「透明な秩序」の具現

ところが、こうした地方の家郷秩序は、主にわが国の中世から近世にかけて、いわば永い世代をかけて成り立ってきたもので、全国でほぼ共通の集落秩序でありながら近代のように為政者や住民が特に計画造成した結果ではないだけに格別それと自覚したものでもなかった。或る学者はこれを「透明な秩序」と評したように、普段はそれと意識されず、神事祭礼や年中行事を営むなかでその形象が立ち現われるという程度のものでしかなかったのです。

加えて不幸なことに、明治近代化を迎えると、世は一斉に欧米の文明開化の大津波に洗われて、全国の都市化と工業化とによって、こうした伝統の家郷秩序は敢えなく消滅の憂き目に瀕してしまったのでした。吾らが郷土、秩父のコミュニティも今や例外なく近代の消費文明に侵されて、かつての豊かな家郷秩序を見失いかけてはいないでしょうか。

○ 家郷秩序の景観的造景

地元秩父の場合、幸いに東京という大都市圏から距離を置いた盆地風土のお蔭で、山水に恵まれた家郷景観を保全してきており、なによりも武甲山という圧倒的な存在は、近年著しい山容破壊にも負けずに景観座標の原点であり続けています。

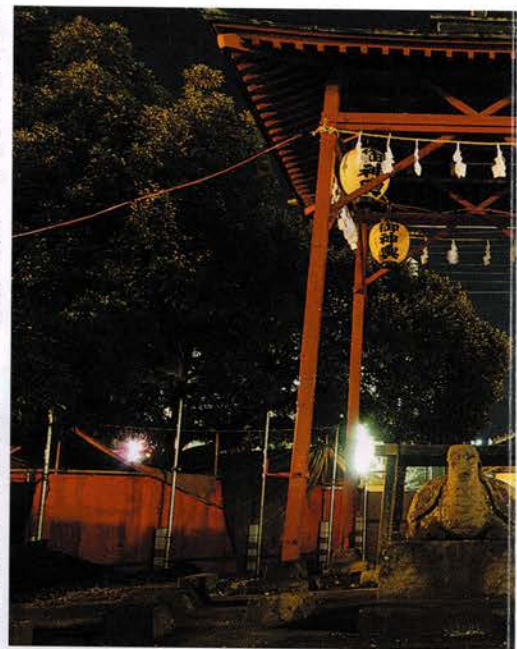
秩父神社は、その創建由緒からすると今年は二千年という節目の年に当たるということで百年に一度の式年奉祝大祭を例祭当日に執行し、また向う十年の間に奉祝事業を企画しておりますが、この事業の眼目は、それこそこうした有史以前から連綿として保持して来た盆地風土の家郷秩序を景観的に造景して、今後百年の将来にわたって郷土秩父ならではの家郷文化を確かなものにすることにあります。

○ 「亀の子石」整備事業の眼目

その奉祝事業の概要については、昨年十二

月の例祭時に発行した社報「柞乃杜」48号に「御創建二千年の奉祝を目指して」と題した論説でお伝えし、また本年十二月発行予定の社報50号ではより詳細な事業内容を解説する予定ですが、本稿では、そのうち眼目の最たる事業である秩父公園内の通称「亀の子石」の本格的整備事業の意義についての紹介しておきます。

大かたはご承知のように、この「亀の子石」は秩父夜祭の最大神事である御旅所斎場祭での祭神出御の神座であって、神社神輿の前に差し立てられる大幣を背に受けて中世以来の神仏習合の祭神・妙見菩薩を彷彿せしめる玄武（北辰・北斗）の神亀を象徴する大切な役割を果たす存在です。いうまでもなく秩父



『通称 亀の子石』

神社は有史以前から土地の国魂を宿す南方の武甲山を遥拝する里宮ですが、中世以来の妙見信仰と習合したことによって菩薩の神座である北辰（北極星）北斗（七星）をも遥かに望むその里宮ともなり、この南北を貫く軸線こそが秩父盆地の家郷秩序の透明な象徴軸となり、しかも天空の太極とものする北辰と地上の神座である武甲山との南北軸の結節点を如実に具現するのが、実は夜祭斎場祭という神事だということです。

残念ながら紙幅に限りあるために、具体的な整備の内容は次号での紹介に譲るとして、こうした家郷秩序の結節点であるにふさわしく御旅所を面目一新することをお約束しておきます。

【表紙和歌解説】

昭和天皇 御製

山裾の田中の道のきぶねぎく
夕くれなぬににほへるを見つ

このお歌は、昭和四十二年に埼玉県で開催された第二十二回国民体育大会で秩父市が柔道・弓道・山岳の競技会場となった際、十月二十五日には畏れ多くも昭和天皇・香淳皇后両陛下には当地に行幸を賜わり、親しく会場をご視察の上ご宿泊なされた折に、武甲の山麓に散策されてお詠みになられた御製であります。

爾来、このキブネギク（別名シユウメイギク）が、秩父の豊かな自然を象徴する武甲山ゆかりの「市の花」と指定されたご遺徳を偲びつつご紹介する次第です。

【表紙絵解説】



この度の表紙絵画は、平成二十五年度第43回武甲山図画展において、秩父市長賞を受賞した大田中学校三年、上原章吾君（現在本庄第一高校一年）の作品を掲載させて頂きました。

夏の強い日差しを浴びている武甲山は木々の燃えるような緑が力強く、実りの秋に向かい成長を続ける棚田の豊かさと共に生命力に満ち溢れた作品です。太古の昔より悠大に聳える武甲山が豊かな水源と山の幸を恵むばかりか季節の彩りを我々に与えている事を再認識させられます。現在、上原君は高校生の本分である勉学に励み、特に化学物理に興味を強く持っているとのこと。今後の活躍を期待しております。

秩父宮会事業報告

権瀬宜 新井 君 美

かつて山の宮様として多くの国民に慕われた秩父宮殿下には、秩父地方のみならず、英国留学中にはマッターホルンにも登頂されるなど広く国内外の山々を歩かれていらつしやいます。

また、昭和二年夏の北アルプス登山の思い出を『山の旅』として著され、穂高神社の奥宮が湖畔に鎮座する上高地の明神池でイワナ釣り



穂高神社にて

に興じられたご様子などが記されています。

本年の研修旅行では、宮様とのゆかりも深い穂高神社を参拝し、さらに上高地の河童橋、そして新穂高ロープウェイを利用して標高二一五六mにある西穂高口駅まで足を延ばし、西穂高岳、槍ヶ岳、笠ヶ岳などの新緑まばゆい北アルプスの山々を一望して参りました。

日本アルプスの総鎮守として信仰を集める穂高神社ですが、古代北九州より移り住んだ安曇族の祖神「海神」を御祭神としてお祀りする御社でもあります。その最も重要なお祭りとなるのが二十一年に一度行われる式年大遷宮祭であり、今から五年前の平成二十一年五月に無事斎行されました。

秩父神社では、この式年造替遷宮に伴う旧御神殿遺構の御用材を穂高神社より譲り受け、秩父まつり会館に隣接する当社境内一角に「柞祖霊社」として新たな境内社を建立致しました。本事業については、穂高神社の小平弘起宮司様をはじめ、ご関係皆様の格別なるご理解、ご協力と合せて、秩父宮会の前会長である故井上久様のご仲介によるところが大きく、これに大総代、神葬祭信徒、立正佼成会の皆様などから多くの篤志を賜り実現致しました。あらためて今は亡き前会長の御恩を偲ぶ特別な旅となりました。

就任 挨拶

氏子青年会会長 吉 田 恵 一



平成二十六年度総会に於いて、会員の皆様のご承認を頂き第十代会長に就任致しました。

昨年は第六十二回式年遷宮が執り行われ、本年は秩父神社御鎮座二一〇〇年を迎える年であります。

諸先輩方が歩み築いてこられた創立二十五周年を迎える氏子青年会会長の大役を仰せつかり、その重責に身がひきしまる思いです。

会員相互の親睦を図りつつ、親子や若い世代の方々にも神社を身近に感じていただける様な事業を展開し「秩父神社を中心に文化的なまち造りを推進すること」を目的とした活動となるよう役員一同尽力して参る所存でございます。

蘭田宮司様を始め、神社職員の皆様、協力会の皆様、会員の皆様方のご指導ご鞭撻、ご協力をお願いし、また退任されます山本前会長に感謝を申し上げまして新役員を代表してのご挨拶に代えさせて頂きます。

退任 挨拶

氏子青年会前会長 山 本 修



平成二十六年度総会に於いて吉田新会長の誕生に伴い、会長を退任することとなりました。

一期二年の在任期間ではありましたが、新しい試みとしての吉田様神社龍勢祭り参列や、親子で登る武甲山登山を通じて、郷里秩父の歴史を体感いたしました。

また、第六十二回神宮式年遷宮では御白石持行事への御奉仕に参加したことは大変感謝を受けました。

更に、観測史上記録的な積雪だった二月の大雪被害では、境内の除雪及び倒木撤去に際して、急な呼び掛けにも関わらず大勢の会員の皆様が道具持参で駆け付け、一所懸命に汗を流す姿を目にし、鎮守の杜へ寄せる思いに感激した次第です。

結びに、吉田新会長を中心に氏子青年会活動の発展と、皆様方のご健勝ご多幸、そして秩父神社の益々のご隆昌を祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

平成二十六年四月より、秩父神社の公式 facebook を開設致し

中西貞夫講元外四百八十七名

末永く幸せなご家庭をお築き戴きますよう
お祈り致します。

柿沼賢次郎（番場）
坂本和彦（中村）

.....

◆御鎮座二千年記念行事

「先代旧事紀―国造本紀―」より、第十代崇神天皇の御代の十一年、知知夫國の初代国造に任命された知知夫彦命が祖神である大神様をお祀りし、本年御鎮座二千年を迎えました。

この佳節に際して、今年の冬祭りは、十二月三日を中心に二千年式年祭と併せて斎行する予定です。特に宮中より百年に一度の臨時御奉幣御下賜のご内諾戴きましたことから、この慶事を長く後世に伝えるべく、流鏑馬奉納をはじめ秩父地域の民俗



芸能サミットなど奉祝記念行事を開催する予定です。詳しい日程などは社務所までお問い合わせ下さい。

◆秩父郡市神社関係者研修旅行

「伊勢の神宮おかげ参りと日本の名社参拝」として、六月十日より十二日の二泊三日の行程で、秩父郡市神社関係者約二百五十名の参加を頂きバス六台にて実施されました。研修では、伊勢の内宮・外宮の参拝からはじまり、遷宮館の見学。



古来神宮に参拝する前には二見浦で禊をしていた故事に倣い、夫婦岩から興玉をのぞむ二見興玉神社。「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢お多賀の子でござる」で知ら

れる滋賀県多賀町に鎮座する多賀大社。そして、石川県加賀市に鎮座し加賀国二ノ宮である菅生石部神社。さらに、加賀藩藩祖前田利家公をお祀りし、神社神門が明治時代の最先端建築様式を採用、現在国の重要文化財に指定されている別格官幣社、尾山神社をそれぞれお参りさせて頂きました。今回は伊勢から滋賀そして北陸地方へと、普段なかなか訪れる事のない地域にお参りさせて頂き、更には六社の大神様の御神徳によりお蔭さまであります。三日間で約千五百キロの行程を参加者全員無事故にて家路に着く事が出来たことを報告致します。

◆妙見朝市開催のこと

境内に於いて四月十九日から妙見朝市が賑やかに開催されています。これは当社宮司が「地域の人たちが



地場産野菜を購入できる場を」と、JAちちぶに協力を頂き実現した朝市です。地元で朝採りした新鮮な野菜や果物、県産米をはじめ、地元でしか味わえない農産加工品がずらりと並び販売されています。清々しい朝、参拝を兼ねて是非一度お立ち寄りください。

【開催日】三月十一日第一・三土曜

午前八時～十時

(参礼、悪天候の場合中止)

【場所】秩父神社平成殿前境内

◆奉納報告

【主催】JAちちぶ



昭和四十九年に結成された上町講は、予て四十年を迎え、これを記念し金老拾萬円のご奉納がありまして、報告致します。

編集後記

■ここに社報柞乃杜第49号川瀬夏祭号をお届け致します。

■神社解説で紹介しました「秩父丸の無線電話」実はこの無線電話において、まさしく今年が記念の年を迎えております。

■世界で初めて無線電話の実用実験が成功したのが、丁度百年前の大正三年(一九一四)。しかも我が国の通信省職員(鳥淵氏、電気技術者の横山氏・北村氏)の三人によつて開発したTYK式無線電話機といひ、三重県鳥羽から神島の距離(約14キロ)で船舶との通話をし、見事成功させたのでした。これより、我が国はもとより世界の無線電話の歴史にみちを切り開いたのであります。

■現代社会では、当たり前のように私たちの生活の中で携帯電話を利用してありますが、この機会に夏休みの親子学習で、無線電話やそれ以前の情報伝達方法などの歴史を調べてみるのも良い機会かもしれません。



※本報の用紙は再生マツト紙を使用しています

平成二十六年(二〇一四)七月二〇日
編集 秩父神社社務所
発行 秩父神社社務所
〒366-0004 埼玉県秩父市番場町一三
TEL(〇四九四)二二一〇二六二
FAX(〇四九四)二四一五五九六
印刷所 有限会社 拓文社印刷所
〒366-0002 秩父市東町二七一八